

令和6年度
MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校
自己点検・評価委員会結果報告書

令和7年3月

令和6年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校の自己点検・評価結果を公表いたします。

令和7年4月1日

学校法人 龍澤学館

理事長 龍澤 尚孝

自己点検・自己評価実施日 2025年3月31日(月)

1. 学校の教育目標

- 1 専門分野の知識と技術を正確に習得する
- 2 社会人としてのマナーを体得・実践する
- 3 生命に対する尊厳を養い、真の優しさを身につける

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1 多職種連携授業の連携継続による協働と深化
- 2 退学者(率)の防止と減少について、継続して取り組む。退学率3%以下を目標とする。
- 3 卒業生を対象としたセミナー、意見交換会の全学科実施に向けて継続して取り組む。
- 4 業界の経営者団体、職能団体等との連携をより深め、学校全体が社会資源の一機関として地域の医療・福祉に寄与する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
課題	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想など学生に周知しているものの、学生の理解度・習熟度に差があるため自身に落とし込めるような指導をする必要がある。	
改善策	授業時のオリエンテーションで授業一つ一つの意味や目的を確認する。また、面談等で学校内外での活動から自身の理解度・習熟度を確認し、目標とする人物象や将来構想に近づけるよう促す。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4

4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
課題	情報システムについては、紙ベース資料も多く引き続きデータ化を加速させていく必要がある。	
改善策	職員一人当たりの業務量の見直しおよび効率化を図り、人事評価を適切に運用していく。データベース化は、学校単体ではなく法人全体として引き続き推し進めていく。	

(3)教育活動

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
課題	学科要件を満たした教員の確保がより求められる。また、業界のニーズやトレンド、高校生が求める情報と組み合わせたキャリア教育が求められている。	
改善策	教員の確保。 教育の質向上のため、各分野積極的に外部研修に参加する。研修で得た情報は、分野を問わず情報共有し、教育活動に活かしていく。	

(4)学修成果

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
課題	様々な問題を抱える学生が増えている中、丁寧な個別指導や保護者との連携強化を図っているが退学者数減が難しい状況。	
改善策	複数教員でサポートし、適切な支援につながるよう外部との連携もより深化させていく。また、学生の状況をデータ化し教員夫々の感度にプラスすることで、多角的な視点を持って指導に当たるなど引き続き退学率を最小限に抑える工夫をしていく。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課題	卒業生への支援は、国家試験受験対策をしている学科に限られている。	
改善策	卒業生に向けた連絡方法および同窓会の実施に向けた連絡等の仕組みづくりを協議する。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4

3	防災に対する体制は整備されているか	4
課題	施設の老朽化が深刻。教室設備の平準化。	
改善策	修繕・設備の必要性や優先度を十分に確認し、打診する。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課題	健康・福祉分野を志す高校生が減少の一途をたどっている状況。オープンキャンパスやHPでは職業理解を、SNSでは学生生活の様子を公開しているが苦戦している学科がある。	
改善策	学校の魅力だけでなく職業の魅力を伝える。高校生や社会が欲しい情報と、発信している情報が合っているかデータ分析を行いながら、ニーズに合った情報提供ができるよう創意工夫を重ねていく。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題	—	
改善策	法人本部で適正に管理・実行しており、財務情報についてはすでにホームページで情報公開している。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

課題	法令等適切に遵守し、運営を行っている。個人情報保護については継続して教職員の意識向上を怠りなく徹底していく。
改善策	第三者評価の実施に向け、継続して仕組み作りをグループ全体で構築していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課題	社会貢献・地域貢献については、ボランティア活動や授業の一環として参加している。今年度実施した「まちなかキャンパス」「オープンユニバーシティ」は参加率が低かった。	
改善策	人間力を高める活動として社会貢献・地域貢献・ボランティア活動を引き続き推奨する。 まちなかキャンパス、オープンユニバーシティの参加につながる周知を行う。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校関係者評価委員会、及び、教育課程編成委員会における提言を教育活動の改善につなげる仕組みは、教育の質の向上につながってきている。また、学生授業評価、ルーブリック評価を継続して行い、学生の状況をよりの確に把握し、満足度の高い教育活動が継続できている。

福祉・医療・スポーツ・こどもの4分野すべてにおいて、人材不足が慢性化してきているため、学校として職能団体との連携を図りながらよりよい人材育成を継続することで社会貢献していきたいと考える。

さらに、各課題への対応は、改良を重ね継続して改善を図っていく。

令和6年度 MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

開催日：令和7年6月11日（水）15：00～16：00

於：MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

1. 出席者

副委員長	株式会社システムエイド	常務取締役	中舘 勝寿
外部委員	学校法人聖公会盛岡こひつじ学園 仁王幼稚園	園長	曾根 美砂
外部委員	公益財団法人 盛岡市スポーツ協会	常務理事兼事務局部長	山田 学
外部委員	医療法人楽山会はまゆり在宅介護支援センター	卒業生	鳩岡 貴士
外部委員	一般社団法人 岩手県社会福祉士会	会長	坂口 繁治
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	校長代理	佐々木 純子
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務課長	竹内 愛美
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務主任	山田 健太郎
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務主任	伊藤 優汰
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務	湊 和美
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教員	滝沢 淳子
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教員	竹花 美奈子
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教員	大冨和弘
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教員	西山直輝
委員	MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教員	會津 真子

2. 委員会次第（概要）

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 状況報告（就職状況報告・入学者状況）
- (4) 令和6年度自己点検・評価報告
- (5) 討議・意見交換
- (6) 閉会

3. 討議・意見交換について

令和6年度の就職実績、今年の入学者状況（昼間部・通信教育部）について報告した。
自己点検・評価結果について達成状況、改善策について報告しそれに対し外部委員の皆様から質疑応答、意見交換を行った。

(2) 学校運営 (8) について

本校ではオンライン化を推進しているが、本部からの情報は紙ベースとなっている。生徒・教員間ではオンラインで進めている。今後はGoogleチャットを導入予定となっている。本校以外は導入されている

(3) 教育活動 (11) (14) について

教員確保の募集をしているが応募がない状況。教員一人当たりの生徒数が多い状況となっている。月に1度研修を行っているが、外部研修に参加し自己研鑽に努める

(6) 教育環境 (1) について

開校して27年近く経つ、配管等の劣化・壁紙トイレ水回りの経年劣化が目立つ教員のDIYをしているが学生募集を挙げ収益増にて改修が必要と思われる

4. まとめ・その他意見交換

今年度は入学生が昨年度より増えたが、併願や経済面について合格後の辞退もあった。県社協等の就学資金などを紹介していく。学生数が増えた理由についてはSNSで活動、教員や授業の様子を発信することにより、楽しそうだと感じる方がいたと考えられる。

「学生データの感度のプラス」という点に関しては、退学希望者対応について丁寧に対応し、増やさないようにしていくため、ジョビで導入したハイパーQUを導入する。現状の心理状況をデータ化し主観・客観どちらでも把握できるようにしている。さまざまな事情を把握し本人の理解把握に努める。退学率については、全国の専門学校平均値ではあるが3%にとどめたい。

SSWについてはなんでも相談室を月に2回開催し、臨床心理士の先生が来てカウンセリングを行っている。MCL全体の学生が参加しており、枠は埋まっている状況。継続や新規、新入生在校生様々である。SSWも配置して支援の幅を広げていきたい。

施設設備については築27年ではあるが雨漏りや配管の不良がある。

事業計画については短期中期計画作成し、中期については事業政策部の方で一本化している。短期計画については新年度で教員に周知していく。

ガバナンス観点から理事長と校長が兼務、他の学校長との兼務はどうか。理事会の定款はどうなっているのか、という意見が出た。

以上